



## 指揮者 松岡 究

指揮を小林 研一郎氏に師事。

1991年文化庁在外研修員としてブダペストに留学、

2004年～2007年ローム財団音楽特別研究生としてベルリンにて研修。

1987年～2008年東京オペラプロデュース指揮者。

2009年～2012年日本オペレッタ協会音楽監督、  
東京ユニバーサルフィル専任指揮者をそれぞれ歴任。

2012年東京ユニバーサルフィル常任指揮者就任。

### 指揮者からのメッセージ

オーケストラってどういうものでしょう？それはいろんな楽器からできている集まりです。その楽器を味わってみましょう。そのためには料理は口を使って味わいますが、音楽は耳を使って味わってください。例えばトランペットはどんな味かな？ヴァイオリンは？するとそれがイタリア料理だったり、ドイツ料理だったりします。そして目を使っても味わってみましょう。オーケストラの人がどんな表情でどんなふう弾いているかな？指揮者はどんなふう指揮してるのかな？ワクワクしながらオーケストラを体験してください。



### うた 歌・司会

#### 藤本 裕貴

大阪音楽大学専攻科修了。

在学中にはオペラだけでなく、  
ミュージカル、歌曲の分野でも幅広く活動。

また第九や、ベートーヴェンの合唱幻想曲のアルトソリストも務める。現在は歌のお姉さんとしても活躍中。現在関西歌劇団正団員。アンサンブルグループ「ノスタルジア」メンバー。神戸波の会会員。一般社団法人アマービレフィルハーモニー管弦楽団専属合唱団所属。



### たがっき 打楽器

#### 樽井 美咲

京都市立芸術大学管打楽専攻を首席で卒業。

卒業に際し京都市長賞を受賞。  
同大学卒業演奏会、打楽器新人演奏会等に出演。第22回日本

クラシック音楽コンクール全国大会入選、第1回ウーヴェルチュールコンサート最優秀賞受賞。マリンバソリストとしてOsaka Shion Wind Orchestraと共演。

一般社団法人アマービレフィルハーモニー管弦楽団正団員。

みな 皆さんこんにちは！目と耳、そしてからだぜんたい おんがく かん 身体全体で音楽を感じてください！  
いっしょ たの 一緒に楽しみましょうね♪

じっさい ちようせん さわ 実際に挑戦してみたり、触ってみると  
どんな発見があるのでしょうか？  
リズム体験コーナーではオーケストラの一員となって一緒に演奏してみましょう！

## 一般社団法人アマービレフィルハーモニー管弦楽団

当楽団は「若手演奏家にもっと演奏の場を」という思いのもと2015年7月1日に設立。以来積極的に演奏会を重ね、公演回数は200回を超える。創立5年にして2020年6月に日本オーケストラ連盟に準会員として加入し、地元茨木市に根付いた活動に重点を置きながらも広く演奏活動に取り組む。2021年度で「定期演奏会」は第10回、ソリストを主役に迎える「コンチェルトシリーズ」は第15回、創設当初から根強いリピーターを獲得してきた「サロンコンサートシリーズ」は第162回を迎える。その他、「親子コンサート」や茨木市を中心とした学校などの教育機関への有償訪問公演、外部からの依頼公演などを実施している。また2020年より楽団Youtubeアカウントから積極的に演奏動画を発信しており、コロナ禍における若い演奏家の演奏機会創出や、広い世代へのクラシック音楽の振興、より広く楽団を周知する活動等に努めている。



## 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業

### 一巡回公演事業一

## アマービレフィルハーモニー管弦楽団 オーケストラ公演

# オーケストラを「知る」 クラシックコンサート



## 文化芸術による子供育成推進事業 一巡回公演事業一

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



# プログラム

- ロッシーニ/ウィリアム・テル序曲 より スイス軍の行進
- グリーグ/ホルベルク組曲 より プレリユード
- 山田耕筰・北原白秋/からたちの花
- ラヴェル/クーブランの墓 より メヌエツト

## リズムの効果体験コーナー

- バッハ/管弦楽組曲第3番 より 第2曲「アリア」を使って  
一休憩 15分

## 指揮者体験コーナー

- ビゼー/カルメン より 「前奏曲」を使って  
～物語と音楽～
- チャイコフスキー/くるみ割り人形  
校歌をオーケストラで歌おう（聴こう）
- ヨハン シュトラウス 2世/美しく青きドナウ

授業で習う  
日本語の楽曲も  
音楽家による演奏で  
イメージが変わる！



音楽を奏でる  
ワクワク、  
オーケストラ演奏の  
魅力がいっぱい！

クラシックって  
こんなに  
面白い！

リズムの効果  
体験コーナー

あなたも  
オーケストラの一員！  
手や足を使って打楽器のように  
音を出し、プロの楽団員と  
一緒に演奏に参加・音を奏でる  
楽しさを体感しよう！

指揮者体験コーナー

ほんもの  
本物の  
オーケストラを指揮できる  
滅多にないチャンス！  
感性を刺激され  
新たな才能が開花  
するかも？！

校歌をオーケストラで  
歌おう（聴こう）

学校の校歌を  
オーケストラにアレンジ。  
いつもと聞こえ方が  
違う？！

終演後 ヴァイオリン体験 or 演奏者へ質問コーナー もあるよ！

# プログラムノート

(解説)

文：杉山 恵梨

ジョアキーノ・ロッシーニ(1792-1868)

## オペラ「ウィリアム・テル」序曲より スイス軍の行進

ロッシーニは多くのオペラを残したことで知られるイタリア生まれの作曲家です。このオペラは、作家シラーによって書かれた物語を元にして1829年に作曲されました。このオペラの題名になっているウィリアム・テルとはスイスの英雄の名前です。スイス軍の行進は、オペラが始まる前の序曲の中で演奏されます。ホ長調で書かれた明るく元気な行進曲です。管楽器がきらきら輝くようなファンファーレを鳴らすと、音符はまるで馬のようにはけ抜けていきます。

エドヴァルド・グリーグ(1843-1907)

## ホルベルク組曲より プレリユード

グリーグは北ヨーロッパのノルウェーの作曲家です。自然や人々の生活、歴史、そして詩を音楽で描くことが自分の使命だ、と述べていたそうです。この組曲は、ホルベアというノルウェーの作家が生きた18世紀の時代をイメージして1884年に作られました。最初はピアノで演奏する曲として書かれていたのですが、のちに弦楽器のオーケストラ用にも書きかえられました。プレリユードには、第1曲目や前奏曲という意味があります。

## 声乐独唱

山田耕筰(1886-1965) 北原白秋(詞)

## からたちの花

この曲は1925年に発表された童謡です。この時期、日本では作家の間で赤い鳥運動という活動が起こって数多くの童謡が生まれました。この童謡の詞は、山田耕筰の少年時代の思い出をもとに、北原白秋によって書かれました。山田少年は町の工場で一生涯懸命働いていました。その合間に、真っ白いからたちの花に目も心もうばわれてしまう瞬間があったようです。

## 木管五重奏

モーリス・ラヴェル(1875-1937)(メイソン・ジョーンズ編)  
組曲「クーブランの墓」M. 68aより  
メヌエツト

この組曲はフランスの作曲家ラヴェルによって1914年から1917年の間に書かれました。第一次世界大戦で戦死した友人に捧げられています。最初はピアノのために作られたものでした。今日は5つの管楽器(フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴット)による演奏を聞きます。ラヴェルは、17世紀フランスの作曲家クーブランの鍵盤作品にみられるような作曲方法をこの組曲に使いました。メヌエツトは3拍子の踊りのための優雅な音楽です。

## リズムの効果体験コーナー

ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685-1750)  
管弦楽組曲第3番第2曲

## 二長調BWV1068よりアリア

バッハは、教会で演奏されるような作品の他にも多くのオーケストラ曲を書きました。この作品もその一つです。いつ作曲されたのかははっきりと分かっていませんが、ドイツのヴァイマルルカケーンで書かれたと考えられています。アリアは主に弦楽器(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス)によって演奏されます。

## 指揮者体験コーナー

ジョルジュ・ビゼー(1838-1875)  
オペラ「カルメン」より  
前奏曲

オペラ「カルメン」は、フランス人作家メリメの小説を原作として作曲されました。1875年にパリのオペラ・コミック座でカルメンの公演が初めて行われました。物語では、スペイン・セビリアの女工カルメンをめぐる兵士ドン・ホセの恋心とその悩みが描かれます。そして、そのホセのライバルとして現れるのが闘牛士エスカミーリオです。この「前奏曲」は、エスカミーリオが闘牛場へ入場するための行進曲として書かれたものです。

## 物語と音楽

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840-1893)

## バレエ「くるみ割り人形」Op. 71より小序曲、 行進曲、くるみ割り人形とねずみの戦い トレバック(ロシアの踊り)、葦笛(フランスの踊り)、花のワルツ

バレエ「くるみ割り人形」は1892年、ロシア・サンクトペテルブルクのマリンスキー劇場で初めて上演されました。原作はフランスの作家デュマによる童話です。クリスマス・イヴに少女がくるみ割り人形に誘われて旅をする、という物語が描かれます。行進曲までは、少女の家でのお祝いの情景が描写されます。くるみ割り人形はクリスマス・イヴに少女の家に行きました。彼は王子となって、ねずみとの戦いに加勢した少女を、仲間たちと住む「不思議の国」でもてなすことにします。そこでは甘い香りのする幻想的な踊りが、次々と繰り広げられていくのでした。今日は、ロシアの伝統的な踊りをもとにした「トレバック」、フランスの素朴な踊りをイメージした「葦笛」、そして花の精が舞う「花のワルツ」を聞きます。そしてクリスマスの朝、少女はいつも通り元気に朝を迎えます。枕元にはくるみ割り人形もちょこんと座っていました。

ヨハン・シュトラウス2世(1825-1899)

## 美しく青きドナウOp. 314

この曲は1867年、オーストリアの作曲家シュトラウス2世によって書かれたワルツです。ウィーンを流れるドナウ川がイメージされています。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のニューイヤークンサートでは、父シュトラウス1世の「ラデツキー行進曲」と共にこのワルツがアンコールとして取り上げられることが多くなっています。

